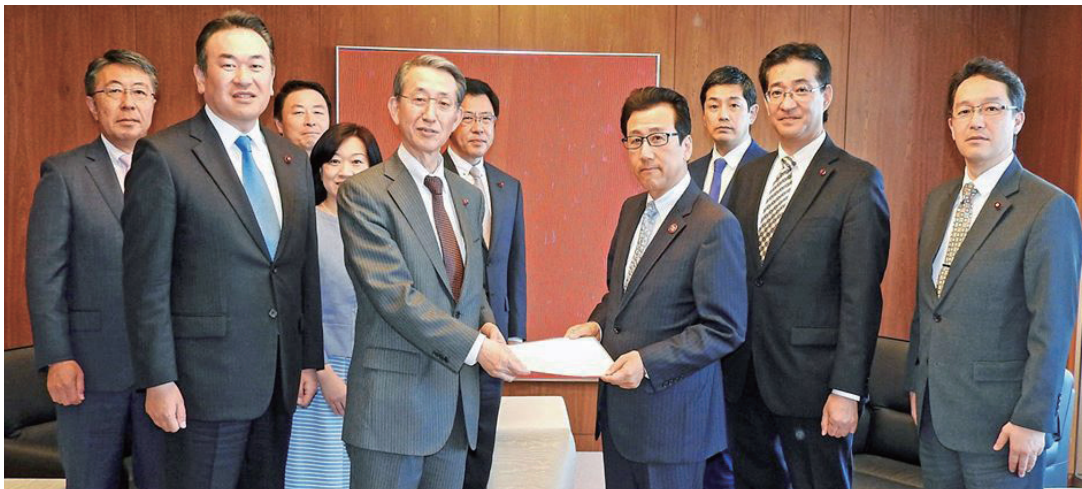


# さっぽろKOMEI

## 「札幌市立夜間中学」 22年度に開校!

### ～来年度、基本計画を策定～

私の第一の公約として取り組んできた「公立夜間中学」の開校。先般行われた札幌市議会第3回定例議会における我が会派の質問に対し、札幌市に北海道初となる「公立夜間中学」を2022年4月に開校するとの方向性が明確に示されました。これまで紆余曲折が様々ありましたが、多くの市民のご期待に応えるべく、粘り強く主張し続け、今回の決定に至った事に感無量の思いです。今後、設置場所などの基本計画を策定し、2022年(令和4年)春の開校へ準備を進めていく事になります。



秋元市長に夜間中学の早期開設を申し入れ(2018年)



札幌市の夜間中学開校決定を報じる新聞記事(北海道新聞)

### 公立夜間中学～期待の声多く

札幌はじめ全国には、戦後の混乱期や、病気、いじめ、ひきこもりなど様々な理由により十分に教育の機会を得られなかった方が大勢いると言われております。そうした方は基礎学力がない事などから自信が持てず、なかなか社会に出ていけないとの指摘があります。

いつからでも誰であろうと等しく学べる社会が求められています。現在、道内には公立の夜間中学はありませんが、全国では8都府県で31校設置されており、多くの方が学んでいます。

# 皆さんの声をカタチに!

## 地下鉄駅構内の トイレをすべて洋式に!

高齢者や外国人の方などから何度もご要望を頂いてきた、地下鉄駅構内のトイレの洋式化について、今春の第1回定例会市議会で質問し、札幌市交通局は全ての地下鉄駅構内のトイレを洋式化するとの方針を表明しました。

公共施設のトイレの洋式化については、小中学校のトイレの洋式化など、長年に渡って公明党が推進してきました。

外出の際にトイレの事が気になって家に閉じこもりがちになっていた高齢者や、札幌市を訪れる外国人観光客などから多くの喜びの声が寄せられました。

今後、順次工事を進めていきますが、設置されるトイレは全て「暖房便座付きのシャワートイレ」を採用。多目的トイレも全駅に整備されます。また主要駅には障がい者用の「オストメイトトイレ」も整備する計画です。



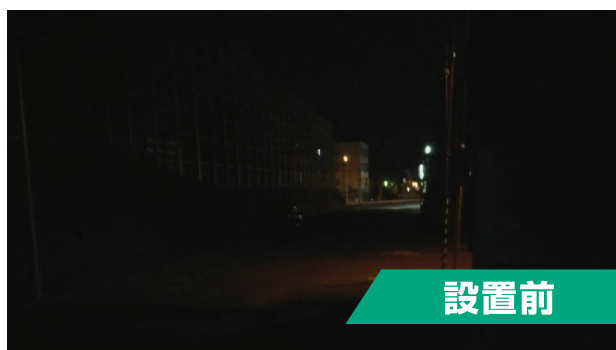
## 不審者事案が発生した市道に街路灯を新設

本年、本通小学校に隣接する市道で不審者事案が発生し、地域の皆さまより「防犯対策のために街路灯を早期に設置してほしい」とのご要望を頂きました。

現場は小学校に隣接する市道ですが街路灯が1基もなく夜は真っ暗になることから、長年地元町内会も街路灯の設置を検討してきたとの事でしたが、財政上の理由などからなかなか実現に至っていないと伺いました。

早速、道路部局と協議を行い、検討を進めた結果、事件発生から僅か3週間で、問題の市道全ての電柱に街路灯が新設され、見違えるように明るくなりました。

町内会関係者、小学校関係者からもお喜びの声を頂きました。現場の電柱は全て電話会社の電柱であった為、やっかいな電気設備工事が発生する事や、費用負担の課題などあり、難航するかと思われましたが、指定避難場所である小学校に隣接する道路であることや、防犯対策の観点など強く訴え、異例のスピード決着となりました。



# 市道の「点字ブロック」の改修工事を実施!

以前より地域の方や視覚障害のある方から、「市道の点字ブロックが摩耗して歩きにくく危険なので修繕を」とのご要望を頂き、道路部局と打ち合わせを行ってきた、北郷通り(北白石小中学校～北13条通間)の「点字ブロック(視覚障害者誘導用ブロック)」の改修工事が今夏完了しました。

今回の改修工事では、樹脂製など簡易型の点字ブロックではなく、退色、変色が起こりにくく、かつ滑りづらい「磁器素材」で施工しました。関係者からお喜びの声を頂きました。



新しくなった点字ブロック

# 北海道胆振東部地震で大きなダメージを負った道路等を修繕

昨年の北海道胆振東部地震では多くの道路がダメージを負いました。また宅地の地盤沈下が顕著だった地域では道路と宅地の段差が大きくなり生活に支障をきたすような個所も発生しました。

発災以来多くの市民からご相談を頂き、関係部局と連携し対応しております。



ご相談を頂き、このほど整備された市道。見違えるように綺麗になりました。

## 第3回定例市議会が行われました。

9月～10月にかけて第3回定例市議会が行われ、様々な課題や今後の構想などについて質疑を行いました。

- 丘珠空港の医療や経済活性化に向けた利活用についてもっと積極的に推進するよう主張。
- 「たばこ対策」として、子育て世帯の禁煙外来の取組や飲食店における受動喫煙対策の考え方を確認するとともに、道議会新庁舎における喫煙所問題について遺憾の意を表明。
- がん患者支援について、患者が適切な相談窓口とつながり正しい知識を得られる体制整備を求めるとともに、抗がん剤治療の副作用で頭髪が抜けた場合に利用する「医療用ウィッグへの助成制度」の導入を求める。
- えほん図書館がオープンして3年が経過し、これまでの成果と今後の取組について質問するとともに、「セカンドブック事業」の早期実現を求める。
- 避難所における乳幼児の食料対策として「お湯や水に溶かす必要がない」、「清潔な水の入手が難しい場面でも使用できる」といった利便性の高さが注目されている「液体ミルク」の備蓄をすべきと主張。
- 災害時における市民への情報発信手段としてのコミュニティFMの活用と、市民への丁寧な周知を主張。
- 「防犯カメラ設置助成制度」について、これまでの設置状況や今後の取組について確認。加えて、やむなく撤去に至った本郷町内会が再度設置することに至った経緯を確認するとともに、3年間となっている本事業の期間延長を行うべきと主張。



# 札幌市が フェアトレードタウンに! 日本で5都市目

5月23日、札幌市が日本で5都市目の「フェアトレードタウン」として認定され、6月1日、認定記念式典が行われました。

札幌市そして札幌市民が、世界に貢献する都市として、また世界市民として成長する契機となったと大変に嬉しく思っております。

2017年12月、札幌市議会で初めて私が公明党を代表し、国際都市として「フェアトレードタウン認定」を目指すべきと訴え、札幌市におけるフェアトレード推進への議論が本格的にスタートしました。

以来、機会あるごとに国際社会の共通目標であるSDGsの理念を実現するためにもフェアトレード運動は重要だと訴え続け、晴れて札幌市が「フェアトレードタウン」として認定をされるに至りました。

公明党が実現をリードした、昨年の札幌市の「SDGs未来都市」選定とあわせて、今後とも札幌市が世界に貢献できる都市として大きく成長できるよう取組んで参ります。



フェアトレードタウン認定に先立ち、一般社団法人日本フェアトレードフォーラムの調査員より、札幌市議会を代表し聴取を受けました。

## フェアトレードとは

日本を含めた先進国では、途上国で生産された日用品や食料品が、驚くほど安い価格で販売されているのをよく見かけますが、生産国ではその安さを生み出すため、正当な対価が生産者に支払われなかったり、過酷な児童労働のほか、生産性を上げるために必要以上の農薬が使用され環境破壊や生産者の健康被害などの問題も発生しています。

フェアトレードとは、私たちが開発途上国の原料や製品を適正な価格で購入することで、立場の弱い発展途上国の人達の生活改善や自立を目指す取組であり、具体的には、フェアトレード製品として認証され、認証ラベルがついたチョコレートやコーヒー、バナナやワインなどの製品を積極的に購入しようとする取組です。

